

公立大学法人金沢美術工芸大学  
令和2年度業務実績報告書  
論点整理表

金沢市公立大学法人評価委員会

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標 イ 学生に対する教育研究指導体制を強化するとともに、教育研究に必要な施設、設備等の充実・整備を行う。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 教育研究設備・機器等について常に調査、検証し、教育研究計画に基づき更新、充実を図る。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p><b>〔質問・意見等〕</b>              想定外の事態にも様々な対策を講じて柔軟に対応し、学習環境の充実を図っている点を考慮すれば、IV評価にも値すると考えられるが、何故評価はⅢなのか。</p> </div>	(ウ) 学生の学習環境の充実を図るため、教育研究設備を点検・整備する。	○新型コロナウイルスの影響を受けて、年度当初よりオンライン授業を余儀なくされたため、急遽、教務システムに加え、KANABI-Portalを立ち上げ、すべての授業のクラスルームを整備した。 また、すべての教員にZOOMのアカウントを付与するとともに、遠隔授業支援チームを立ち上げ、オンライン授業の支援を行った。 ○7月31日から本格的に対面授業を実施することに伴い、三密を避けるため、一般教室の一部をアトリエに転用したほか、教室の収容人数の制限を行った。 また、映像メディア室にアクリル板を設置するとともに、スタジオなどへの入室制限を行うなど感染防止対策を徹底した。 各専攻に対しては体温計を貸し出すとともに、校内各所への消毒液の設置箇所を増やした。 ○学生から特に要望が多かった工芸実習棟無線LANの増設により、インターネット環境の整備を行った。 ○学生の学習環境の充実や、冬季の入試時に不具合が生じないように、老朽化した工芸実習棟のボイラー設備の更新も行った。	Ⅲ		資料20-1 資料20-2

22

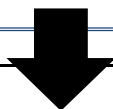
**〔回答〕**  
 ご指摘のとおり、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下、学生向けのKANABI-Portalを急遽立ち上げ、学生に対する連絡や情報提供を迅速に進めた。加えて、初めての試みとなるオンライン授業に対しても遠隔授業支援チームを立ち上げ、学生に不利益が生じないよう対策の徹底も行った。また、老朽化のために使用できる教室数が少ない中、三密を避けるために可能な限りの対策を施し、学生の教育研究機会の確保に最大限努めたところである。本学では、出来る限りの対策を行ったところであり、他大学と比較した際に際立ったものがあるのかが不明のためⅢ評価としたが、これらの取り組みに対して評価をいただけるようであれば、IV評価に修正することを希望する。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (3) 学生への支援に関する目標

中期目標 ア 学習支援体制を検証し、学部教育と大学院教育のそれぞれに相応しい学習支援体制を構築する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
(イ) 授業科目以外の課外、学外の活動に関する支援体制を検証し、充実を図る。	(カ) 国立工芸館の金沢移転を機に、工芸を含む国内外の近代・現代美術を学ぶ機会の充実を図る。	<p>○国立工芸館の金沢移転を機に、2年度から新たに「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加盟し、国立工芸館を含む東京・京都・大阪の全ての国立美術館における展示を、学生及び教職員が無料で鑑賞できる環境を整備し、主体的な学びを支援することとした。</p> <p>○「国立工芸館・いしかわ・かなざわ連携協力者会議」に学長が委員として参画し、本学と国立工芸館の連携の在り方について意見交換を行った。</p> <p>○環境デザイン専攻では、学生が完成した国立工芸館の内覧会に招待され、建物の歴史や特徴を学ぶことができた。</p> <p>また、博物館実習Ⅰの授業において、2年12月から3年1月にかけて国立工芸館を見学し、改修前後の建築比較に関する研究を行った。</p> <p>○工芸科では、国立工芸館が市民向けに行っている「タッチアンドトーク」を学生向けに授業として取り入れる可能性について同館研究員と本学教員が協議を開始した。</p>	IV		資料18-3 資料18-6

〔質問・意見等〕  
 何故評価がIVなのか(年度計画を上  
 回って実施している部分)を具体的に説明してほしい。



〔回答〕

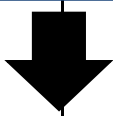
年度計画では、「工芸を含む国内外の近代・現代美術を学ぶ機会の充実を図る。」とあり、これについては「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加盟し、全ての国立美術館における展示を学生・教職員が無料で鑑賞できる環境を整備し、一定の目的は達成したところである。これに加え、当初の予定にはなかったこととして、本学の学長が「国立工芸館・いしかわ・かなざわ連携協力者会議」へ委員として参加したほか、館長との独自の協議を踏まえ、既に国立工芸館を活用した授業が始まっている。更に工芸科では、国立工芸館が市民向けに行ってきた「タッチアンドトーク」を本学の新たな授業に取り入れ、実際に同館のコレクションを活用し、研究員との協働による授業の実施も予定されるなど、双方にとって大変有益な協議が進んでいることから、本学ではIV評価とさせていただいたところである。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）  
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標	ア 芸術の分野において、地域の文化を振興し、また国際的な交流を促進する研究を行い、研究拠点を形成する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
<p>(ア) 金沢をはじめとする地域文化について、本学独自の視点による高度な水準の研究に取り組み、その成果を公開する。</p>	<p>(ア) 「平成の百工比照」収集作成事業として、漆工・陶磁・染織・金工の各分野の収集・整理を進め、金沢の地域文化の発展に資する研究に取り組む。</p>	<p>○本学の美術工芸研究所では「平成の百工比照収集事業」を実施しており、金沢の地域文化の発展のために、ものづくりにおける素材と技術、工程を学ぶ教育を充実させる研究に取り組んでいる。                      ○2年度は、平成の百工比照を活用した学術研究を推進するため、国立民族学博物館と連携協定を締結し、「平成の百工比照コレクションデータベースを基に、高等教育におけるデータベースの在り方及び活用手法について検証するとともに、社会連携事業と連動させることにより、高等教育教材の実用化を目的とする研究」を推進することとした。                      具体的には、美術工芸研究所ギャラリーにデジタルサイネージタッチパネルを導入し、平成の百工比照の全資料を対象とする検索システムを10月5日より稼働させた。                      なお、本学が国立の研究機関と協定を結ぶのは初めてであり、また国立民族学博物館が公立大学と協定を結ぶのも初のことである。                      ○金工分野の映像資料として4K画質による「加賀象嵌技法制作」の工芸技術記録映像を美術工芸研究所ギャラリーで公開し、工芸科や芸術学専攻の授業で活用した。</p>	IV		資料34-1 資料34-2

**〔質問・意見等〕**  
**「社会連携事業と連動させることにより、高等教育教材の実用化を目的とする研究」とはどのようなものか、具体的に説明してほしい。**



**〔回答〕**  
 これまで、「平成の百工比照」収集作成事業では、金沢21世紀美術館等で展覧会を開催するとともに、本学の美術工芸研究所ギャラリーにおいてコレクションを一般に公開してきた。今回の国立民族学博物館との連携協定においては、こうした一般公開に留まらず、専門的な研究者や民間の産業従事者がデータベースを駆使し、新たな技術研究や製品開発を行うなど、「平成の百工比照」を産業分野においても活用できる環境整備を目指している。こうした試みを、「社会連携事業と連動させることにより、高等教育教材の実用化を目的とする研究」と記載させていただいたところである。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）  
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標 イ 研究・調査の成果を体系的に蓄積し、国内外に対して広く効果的に発信・展開する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
<p>(ア) 本学が取り組む研究について、その成果を効果的、計画的に整備・蓄積し、また公開・展開する。</p>	<p>(ウ) 柳宗理コレクションの調査研究を継続するとともに、デザイン教育の充実のために活用するほか、市民向けのデザイン啓発事業を展開する。</p>	<p>○11月24日に、これまで柳工業デザイン研究会から金沢美術工芸大学に寄託されていた、柳宗理の手掛けた作品や模型などの資料6,701点の本学への寄贈に向け、合意書の締結式を行った。          この作品をより一層有効に活用するために、市とも協議を行い「(仮)柳宗理デザインミュージアム」の設置に向けた準備に着手することとなった。          ○柳宗理記念デザイン研究所では、寄託作品調査の基盤情報の取りまとめ、及びその成果の展示やホームページでの公開を引き続き行った。          また、NHK主催によるDESIGN MUSEUM BOX「柳宗理のデザインプロセス カトラリーを例に」展を開催するとともに、企画者のデザイナー・田川欣哉氏と製品デザイン専攻学生によるオンライン座談会を実施した。          ○新たに柳宗理記念デザイン研究所の公式フェイスブックページを開設し、研究所での展覧会の情報や来客者の情報を随時発信した。          加えて、オンライン公開講座を制作し公式YouTubeチャンネルで公開した。</p>	IV		資料39-1 資料39-2

**〔質問・意見等〕**

柳宗理のデザイン資料が寄贈されることの意義と、それが教育研究活動に与えるメリットを具体的に説明してほしい。(今後の展望等)  
 また、「NHK主催によるDESIGN MUSEUM BOX展を開催する」とあるが、これに対する美大の関わり方は。



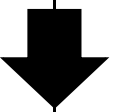
**〔回答〕**

本学の教授をつとめ世界的に著名な工業デザイナー・柳宗理氏が遺した資料を受贈し保存・活用することは、日本のデザイン研究において学術的に重要であるとともに、「手で考え、心でつくる」というデザイン科の教育理念を後世に伝えるために、大変意義深いことである。今回、寄託から寄贈に進展したことに伴い、販売された製品だけでなく、制作のプロセスを雄弁に語る図面や試作品などの資料を本学の学生が自由に活用できる幅が広がったことは、実践的なデザインの教育を行う上で非常に有益なものとなる。また、NHKが主催して開催されたDESIGN MUSEUM BOX展では、柳宗理記念デザイン研究所の展示室を会場とするだけでなく、企画者のデザイナー・田川欣哉氏の資料調査に協力し、本学の製品デザイン専攻教授のコーディネートにより、田川氏と学生によるオンライン座談会を実施することで、本学の学生に向けグローバルなデザイン思考に関する最新の潮流などをご教示いただくなど、これから社会に出る学生にとって非常に参考となるものとなった。

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標  
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期目標

社会に対する説明責任を果たすため、積極的な情報公開を図る。また、大学の活動を広く社会に示すため、教育研究活動や大学の特色について、積極的な情報発信を行う。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(イ) 印刷媒体やホームページ等の広報媒体と方法を見直し、新規広報媒体の発行・発信を含めた改善を行う。</p> <div data-bbox="230 738 907 1090" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>〔質問・意見等〕</b> 何故評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分)を具体的に説明してほしい。 また、新キャンパスとの関連(移転プロモーションであること)が分かるような具体的な記述を追記してほしい。</p> </div> <div data-bbox="504 1098 616 1209" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="230 1217 907 1455" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>〔回答〕</b></p> <p style="text-align: center;">※次頁へ</p> </div>	<p>(イ) 新キャンパス移転に向けた機運の醸成のため、市民に向けた積極的な情報発信に努める。</p>	<p>○10月24日金沢市アートホールにて、視覚デザイン専攻卒業生であり、NHK「びじゅチューン！」で有名な、井上涼氏のトークショーを開催し、美大での制作活動やアニメーションの制作について、講演いただいた。</p> <p>コロナ禍ではあったが、定員134名は早々に満席となり、市民の関心の高さが感じられた。</p> <p>○本学客員教授で映画監督の米林宏昌氏と本学学生20名が「映像プロジェクト」を立ち上げ、イメージやアイデアを募集し制作に取り組んだ短編アニメーション「With All Our Hearts」の制作発表会を12月1日に美大ホールにて行った。</p> <p>この動画は、現在も美大HP等で広く市民の方々へ公開しており、2万回を超えるアクセス数となっている。</p> <p>【再掲53】</p> <p>○新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底した上で、10月2日～10月6日まで北國新聞交流ホールにおける新キャンパス移転プロモーション展「教材としての芸術資料—金沢美術工芸大学所蔵の版画・写真・ポスター」を開催し、本学が所蔵する63点の版画・写真・ポスターを公開した。17世紀フランスの版画家アブラハム・ボスの「凹版画の刷り師たち」（1642年）を学外初公開したほか、アンセル・アダムスの風景写真や亀倉雄策の東京オリンピックポスターなど優品の数々を展示し、市民に貴重な芸術資料の鑑賞機会を提供するとともに、美術工芸研究所の研究成果を学外に向けて発信した。</p> <p>【再掲57】</p>	IV		<p>資料37-1 資料37-2 資料37-3 資料40-1 資料40-2 資料55</p>

107

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標  
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期目標

社会に対する説明責任を果たすため、積極的な情報公開を図る。また、大学の活動を広く社会に示すため、教育研究活動や大学の特色について、積極的な情報発信を行う。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
<p>〔回答〕 ※前頁より</p> <p>ご指摘を踏まえ以下のとおり、文面を修正する。（修正箇所は下線部）</p> <p>○新キャンパス移転プロモーション事業の一環として、10月24日金沢市アートホールにて、視覚デザイン専攻卒業生であり、NHK「びじゅチューン！」で有名な、井上涼氏のトークショーを開催し、美大での制作活動やアニメーションの制作について、講演いただいた。 コロナ禍ではあったが、定員134名は早々に満席となり、市民の関心の高さが感じられた。</p> <p>○新キャンパスへの移転に向けた広報活動の強化を目的に、本学客員教授で映画監督の米林宏昌氏と本学学生20名が「映像プロジェクト」を立ち上げ、イメージやアイデアを募集し制作に取り組んだ短編アニメーション「With All Our Hearts」の制作発表会を12月1日に美大ホールにて行った。 この動画は、現在も美大HP等で広く市民の方々へ公開しており、2万回を超えるアクセス数となっている。</p> <p>【再掲53】</p> <p>○新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底した上で、10月2日～10月6日まで北國新聞交流ホールにおける新キャンパス移転プロモーション展「教材としての芸術資料－金沢美術工芸大学所蔵の版画・写真・ポスター」を開催し、本学が所蔵する63点の版画・写真・ポスターを公開した。17世紀フランスの版画家アブラハム・ボスの「凹版画の刷り師たち」(1642年)を学外初公開したほか、アンセル・アダムの風景写真や亀倉雄策の東京オリンピックポスターなど優品の数々を展示し、市民に貴重な芸術資料の鑑賞機会を提供するとともに、美術工芸研究所の研究成果を学外に向けて発信した。</p> <p>本学では、令和5年度中の新キャンパス移転に向け、機運を醸成することが大切なプロジェクトとなっている。こうした中、本学に在学した著名な方と連携し、市民や受験生などに向けた情報発信に取り組んだが、コロナ禍にもかかわらず講演会では予定よりも早めに定員数に達したほか、制作した短編アニメーションのアクセス数は2万回を超えるなど、当初の見込みよりも大きな成果を上げることができたと考えており、IV評価とさせていただいたところである。</p>					

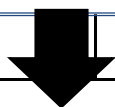
その他業務運営に関する重要目標  
1 施設設備の整備・活用等に関する目標

中期目標

施設設備の利用環境を良好に保ち、有効に活用するため、常に利用状況を把握するとともに、施設等の機能保全や維持管理を計画的に実施する。また、大学の将来像を見据え、新キャンパス構想の具体化を図る。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 新キャンパス構想に基づき、新キャンパスに必要な機能を具体的に検討し、金沢市による新キャンパス基本計画の策定に寄与する。	(イ) 新キャンパス実施設計に基づき、移転に向けた準備を進める。	○市や設計業者と協議し、新キャンパスの基本コンセプトである「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」の実現に向け、美大の意見を実施設計に反映させた。 具体的には、大学の活動を発信する「アートプロムナード」の一部にガラス覆いを設けるなど、半屋外空間を随所に設置し、雨や雪が多い北陸の気候に配慮したほか、創作に集中できる「創作の庭」に面してリング状に「共通工房」を配置し、すべての学生が領域を越えて利用できる効率的な制作環境を構築することとした。 また、キャンパス内の随所に設ける「アートcommons」を多様な作品の展示や合評が行える環境とし、学生が相互に刺激しあえる空間として整備するほか、周囲の道路沿いには歩行者空間を設け、キャンパス周辺の歩行環境向上にも配慮することとした。 加えて、各専攻における必要備品の確認作業にも着手し、附属図書館の書架を皮切りに必要経費の予算要求も行った。	IV		資料2

〔質問・意見等〕  
何故評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分)を具体的に説明してほしい。



〔回答〕

基本設計時に計画した「アートプロムナード」とキャンパス内の随所に設ける「アートcommons」との連関性を強化するために、配置場所や外部からの見せ方について本学の意見を取り入れてもらい、当初の予定よりも外部への発信機能を高め、ギャラリーとしての利便性の向上に努めた。加えて、それぞれの「アートcommons」において使用する専攻や目的に応じ、機能性を高め、学生目線に立ち使いやすいものとする事で、新キャンパスにおける多様な展示が可能となった。このことは、大学における学生の学習成果の可視化、並びに教員の教育成果の可視化において極めて重要なことであり、基本設計から更に踏み込んだ内容となっており、今回IV評価とさせていただいたところである。